

釜石市復興まちづくり懇談会
説明資料(鵜住居地域)

2011.8.6
釜石市

1. 目的

- 土地利用の案を、地域の皆様に見ていただき、ご意見をいただくことを目的にしています。
- 9月末に公表予定の「釜石復興まちづくり計画」へ反映していきます。

2. 本日の進め方

- 全体説明
- テーブルワーク(グループに分かれて)
- グループ発表
- まとめ



- (1) 短期間で生業と生活を立て直す
- (2) もともとの社会問題に立ち向かう
- (3) 段階的に復興に取り組む



(1) 短期間で生業と生活を立て直す

長期に渡る復興に向けては、被災から一日も早い回復を図ることが大切です。

- ・ 支援から自立へ、生活再建に向けた支援
- ・ 生業の再生は、地域経済再生の足がかり。
産業、商業、漁業を営む基盤を仮設で復旧



(2) もともとの社会問題に立ち向かう

社会問題：少子高齢化、人口減少、産業空洞化、雇用縮小・・・
(元に戻すだけでは、解決できない・・・)

将来に渡って、持続可能な新しい社会を目指す。

そのためには、

地域資源を見つめなおし、生業・生活に活かす。

ex. 地場産品、地産地消の仕組み、エコツーリズム、

海と山に囲まれた美しい景観

人に優しい空間をつくる。

災害に強い安心できる都市をつくる。



(3) 段階的に復興に取り組む

本格復興に向けては、過渡期が必要。

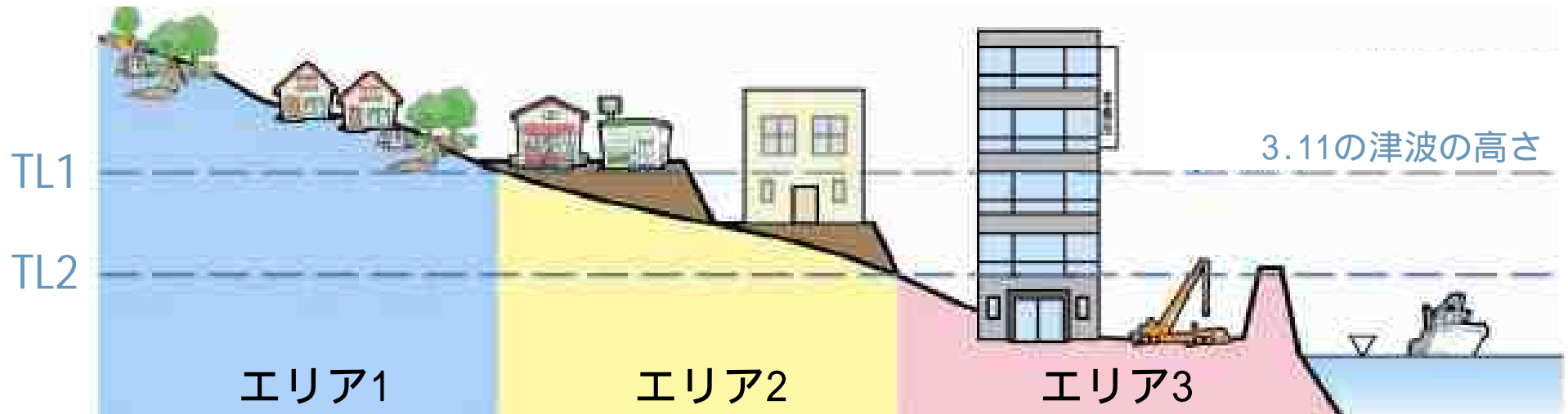


- ・基盤となる生活の再建
- ・計画→設計→実施→維持管理

- ・まず、まちづくりの基本的な方針を定めます。
(復興過程を通じて…)
- ・復興に向けては、十分な時間が必要で、
住民の話し合いを基本に、皆でじっくり相談する。
仮設住宅で、まちづくり協議会などを設立



- エリア1 : 今回の津波の高さより高い場所
- エリア2 : 現状の防潮堤より高い場所
- エリア3 : 現状の防潮堤より低い場所



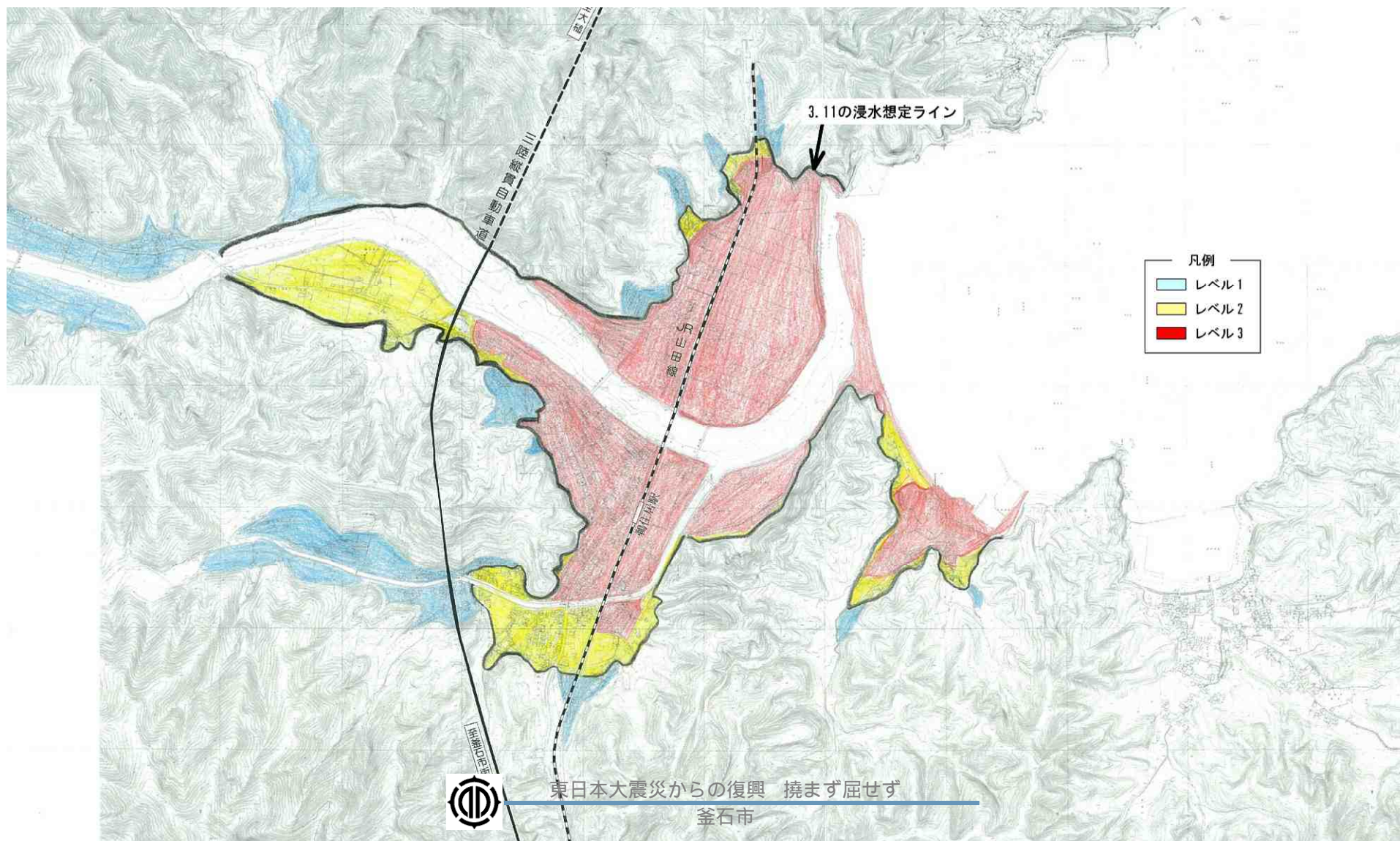
TL : 津波の高さのこと (Tsunami Levelの簡略表記)

TL1 : 既存の防潮堤高 (既往最大の明治三陸沖地震による津波高を想定)

TL2 : 東北地方太平洋沖地震による津波高



- 鵜住居地域の防潮堤の高さはTP+6.4m（低平地は、TP+2.0m程度）
- エリア1の土地が極端に少なく、エリア3の低平地が大きく広がっています。



三陸縦貫自動車道による安心確保 (緊急退出路を整備)

鵜住居を発信できる拠点の整備:

- ・ 観光情報 (豊かな自然と海、東日本大震災の記憶)
- ・ 防災情報の発信拠点を整備

高台への集団移転等による安全確保

国道45号沿いのロードサイド型店舗や産業施設用地を造成

陣屋遊び等の伝承と避難システムの構築

(避難場所と避難後の孤立を防ぐ避難路ネットワーク)

山の避難路	避難した広場、公園を結ぶ遊歩道等 (孤立防止)
街の避難路	拠点となる津波避難ビルの設置
海の避難路	避難用高台や避難ビルの設置

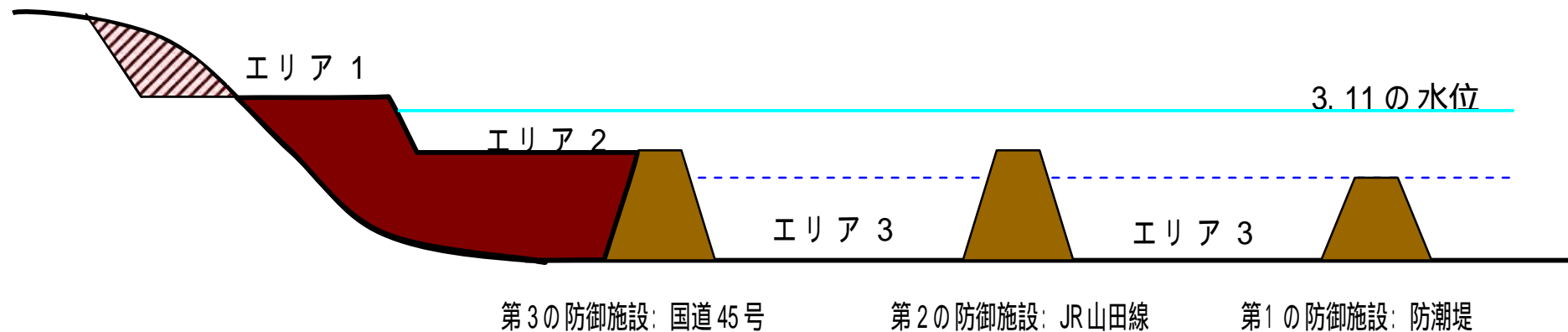


- 鵜住居地域全体を盛土造成により安全確保していくことは難しいため、多重防御の考え方を導入します。
- JR山田線や国道45号に防浪機能を持たせた上で地域の安全を確保していく必要があります。

第1の防御：TP+6.4mの既存防潮堤を復旧

第2の防御：JR山田線の軌道高を嵩上げ(エリア2)

第3の防御：国道45号の路面高を嵩上げ(エリア2)



第1案：JR山田線ルート移設案

- JR山田線を山側に移設嵩上げ
- 鵜住居駅を片岸地区よりに移設

第2案：鵜住居駅長内川南側移設案

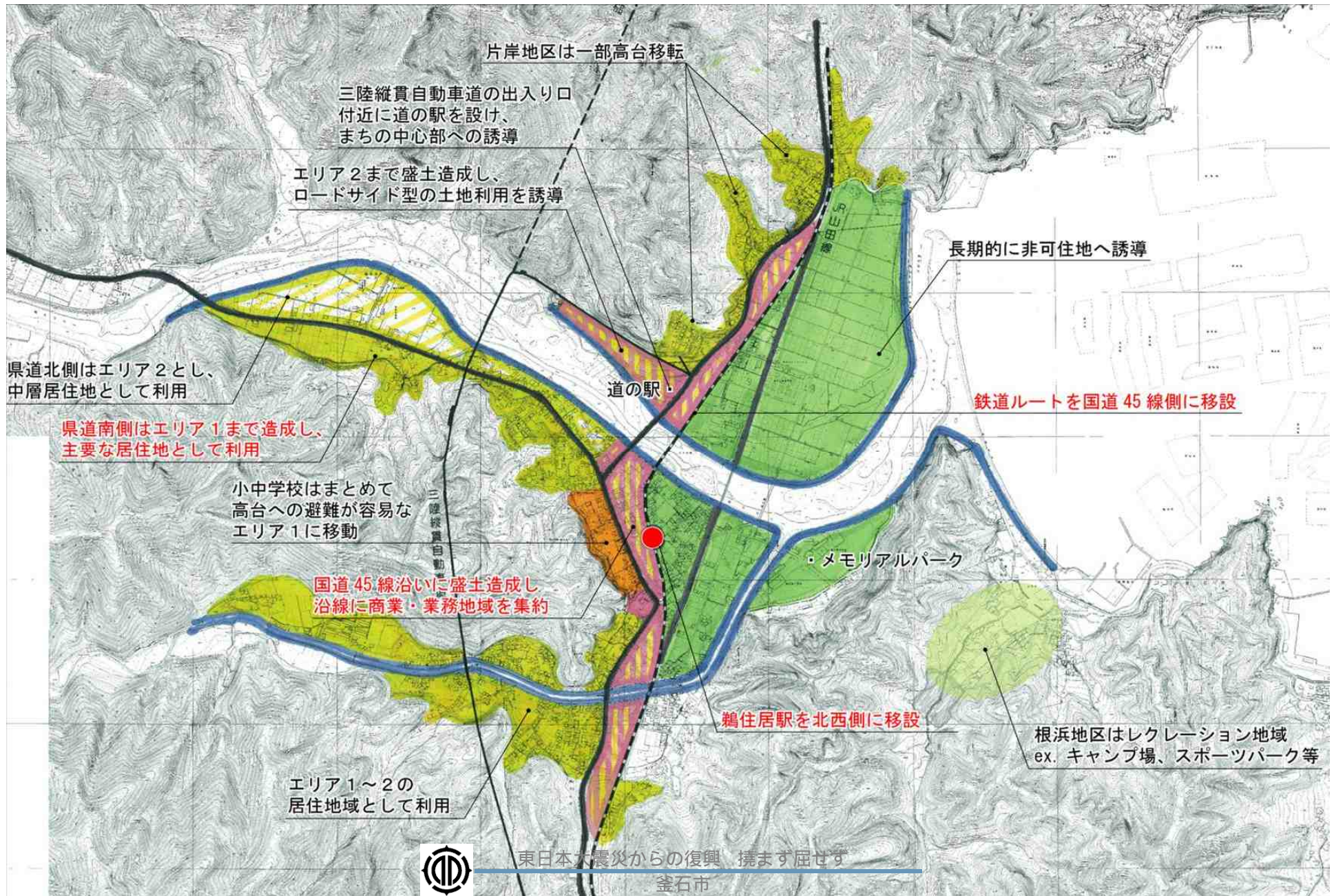
- JR山田線を移設せずに嵩上げ
- 鵜住居駅を日向地区側に移設

第3案：鵜住居駅長内川北側移設案

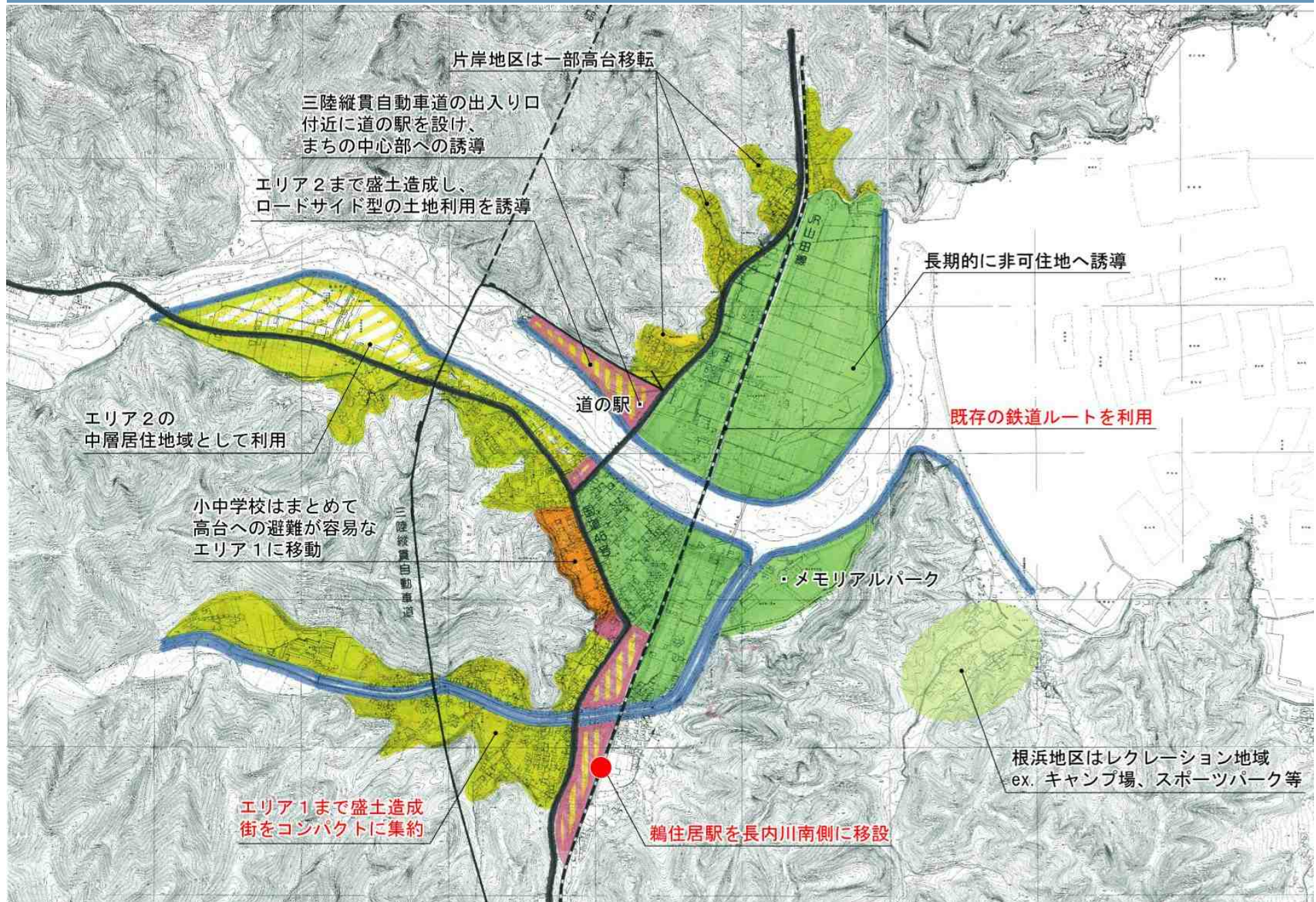
- JR山田線を移設せずに嵩上げ
- 鵜住居駅を旧市街地(駅舎)近くの嵩上げ予定地に移設



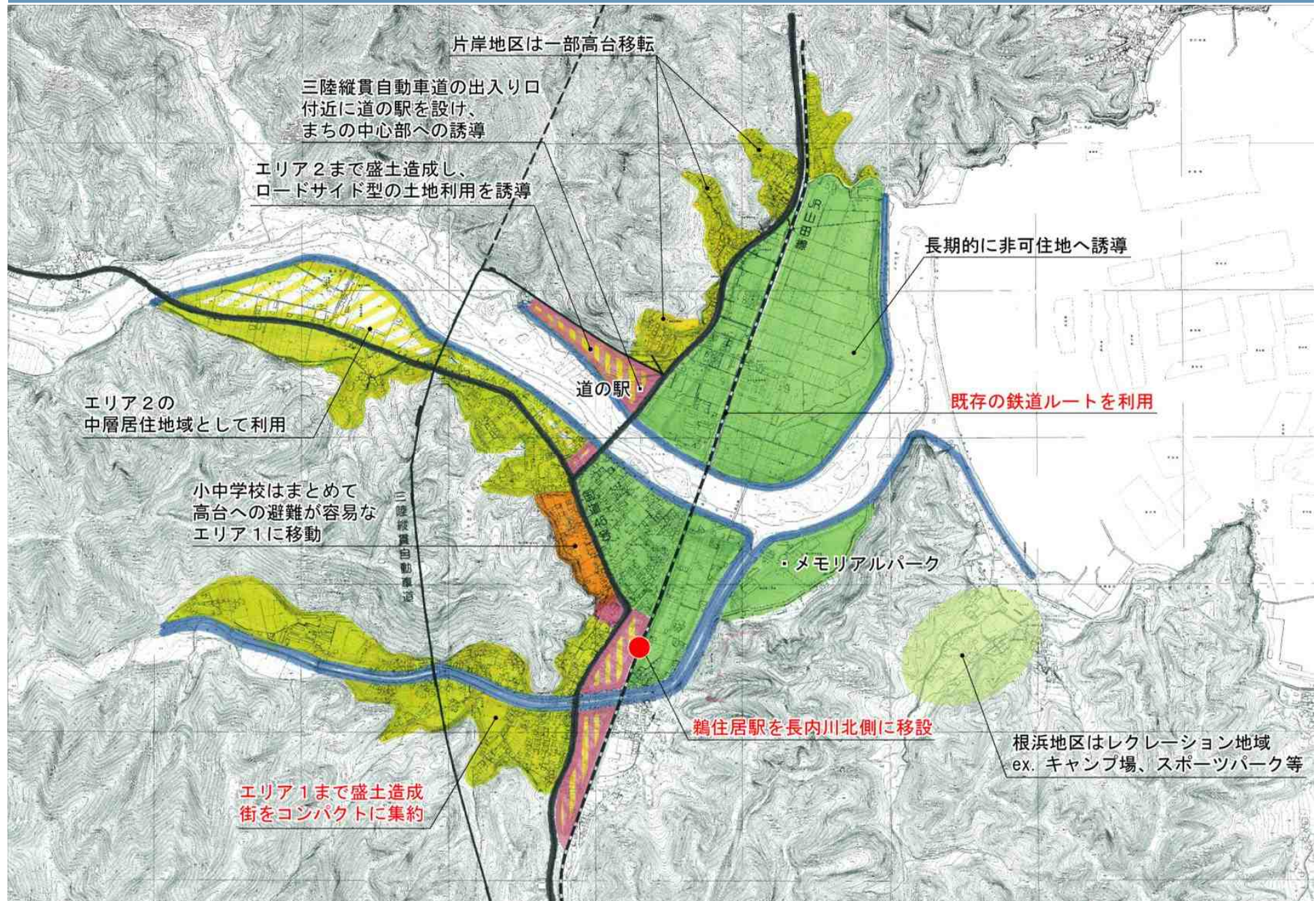
第1案：JR山田線ルート移設案



第2案：鵜住居駅長内川南側移設案



第3案：鵜住居駅長内川北側移設案



- 1 . 土地利用に対する方向性
 - 住居地域と商業地域
 - 盛土するか、構造物で対応するか？

- 2 . 安全性に対する方向性
 - どの程度の津波に耐えられるべきか？
(どの程度の大きさ？)
 - 堤防をかさ上げ？土地をかさ上げ？

